

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	家電量販店（店長）	販売量の動き	・特別定額給付金が入ったことでエアコン、冷蔵庫、洗濯機など大物商材の売行きが良い。
	◎	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・一過性の特需のため本質的な改善ではないが、キャッシュレス決済によるポイント還元終了目前の駆け込み消費と、新型コロナウイルス対策の特別定額給付金が非常に大きく消費に影響している。
	◎	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・個人客の利用に関しては、例年の90%近くまで回復したが法人利用や団体利用は少なく、全体の回復は40%ほどにとどまる。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・ようやく街に人が戻ってきている。土日は若者の姿も多く見掛ける。昼は飲食店にも活気が出てきている。夜の飲食店もまだ平生には戻っていないが、半分ほどは席が埋まっている光景をよく見掛けるようになってきている。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・クリアランスセールが好調に推移している。お中元の総合ギフトセンターは新型コロナウイルスの感染対策から土日の混雑を避ける動きがみられ、平日に来店する人が増えている。併せてWebでの受注が大幅に伸びている。月を通しての売上高は前年比マイナス3%の見込みである。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・お中元や父の日、主に仏事のお返しといったギフトを中心に動きが良い。外出自粛でゴールデンウィーク中に帰省できなかった遠方の家族や親戚への個人的なギフトが好調である。また、特別定額給付金の振込みが始まり、ブランド品や時計等に動きがみられる。自粛中の我慢の反動とみられる動きがある。
	○	スーパー（総務担当）	単価の動き	・キャッシュレス決済によるポイント還元の駆け込みがある。
	○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスによる規制の解除により来客数が若干戻っている。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・郊外に立地する店舗の売上は回復してきている。ただ、週末の夜などの売上はいまだに回復していない。また、回復したといっても前年の100%近くまで売上が回復しただけで、前年同様の売上まで戻るにはもう少し時間が掛かると考える。新型コロナウイルスの影響を受け、売上が激減していた3か月前よりは売上の減少が落ち着いてきたため、やや良くなっていると考え。
	○	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・夕方以降の来客数が前年を大きく下回っている。
	○	家電量販店（本部）	販売量の動き	・暑くなってきたことと特別定額給付金の効果でエアコンを中心に動いており、全体を底上げしている。ただ、単価がそれほど伸びていない。
	○	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・外出自粛の緩和による影響で来客数が徐々に増えており、購買意欲も以前と比べ格段に上がっているようにみえる。
	○	自動車備品販売店（役員）	販売量の動き	・自粛ムードの緩和により集客面は回復の兆しがみえてきている。しかし、必要なものの購入のみにとどまっているようで、売上面では依然として厳しい状況が続いている。一方で、買物を控えていた反動から、高めの商品を選択する客も若干だが増えてきている。
	○	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・新型コロナウイルス発生前の水準にはまだ遠いが、6月に入り新型コロナウイルスの流行期と比較して来客数の改善が続いており、週を追うごとに改善していることが実感できる。
○	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の解除後から、徐々に消費者の外出頻度が増え、それに伴い徐々に外食する家族が増えている。また、外食の機会としては、企業の自粛やテレワーク期間が終わり、ランチ需要が早々に戻ってきている。一方でディナーはまだまだで飲酒を伴う利用の戻りは40～50%程度だが、晴れの日における家族需要の高い、すし店や焼肉店は戻ってきている印象を受ける。	

○	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・5月は全面休業し、6月5日からの週末営業を経て、11日より通常営業している。6月8日の県民宿泊割引の受付開始後からは、予約受注が大幅に増加している。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・自粛ムードもやや解消の方向となり、少しずつ外出するようになってきている。夜の街も週末を中心に少しずつ人出が増えてきたが、以前のように戻るのはまだまだである。
○	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による受付制限があったため販売量は激減していたが、規制解除に伴って原則来店予約を中心とした受付に変わってから、販売量が増え始めている。
○	通信会社（役員）	販売量の動き	・緊急事態宣言が解除されて営業を開始したため、放送、通信共に契約数が増え、前年同月比で80%くらいまで持ち直してきている。
○	美容室（経営者）	販売量の動き	・6月から営業時間、休日共に通常営業に戻したので、来客数は前年並みになっている。売上の方も、夏のキャンペーンを1か月早め実施しており、商品の販売は好調である。
○	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・今月は土地の問合せや住宅の相談が増え、商談の件数が多くなっている。約3か月間動きが止まっていたので、これまで我慢していた人達が動き出した感じである。
○	住宅販売会社（営業）	販売量の動き	・商談数が確実に増えてきている。
□	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除や県境を越えた旅行等の解禁のおかげで、旅行者などが若干目に付くようになってきている。地元の人たちの飲食店の利用も少しだが増えてきている。
□	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス対策を実施し、来店者を恐る恐る迎えた。6月からは新型コロナウイルスの影響が一段落し、来客数が増加している。必需品から購入が増加し、特に一般家庭では特別定額給付金の支給が30万以上あるようで、子供の衣料品や靴、ランドセル等の購入から回復している。大人の衣料品も先行値下げが影響し、1品単価は低下しているが、購買意欲は増加している。前年比の90%後半までと予測以上の回復である。
□	スーパー（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による自粛で内食需要が依然としてある。全体的に一度の販売量が多い傾向が続いている。
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・閉店していた店舗が再開し、少しずつ客が戻りつつあるが、売上が回復しているとは言い難い状況である。
□	衣料品専門店（店舗運営）	来客数の動き	・大幅に落ち込んでいた来客数が、新型コロナウイルス発生以前の状態に戻りつつある。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・6月後半から車の走る量が多くなり人の動きも出てきたと考えるが、新車販売はここ2～3か月変わらず悪い。景気の状態はまだ変わっていない。
□	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・相変わらず厳しい状況が続いているが、週末の来客数は以前の状態に戻りつつある。
□	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ニュースでも出ているように、新型コロナウイルスによる影響の深刻さは大変なものである。この先どうなるかは全く想像ができない状態である。
□	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・人の動きは戻っていない。今はテイクアウトでしのいでいる。ゼロよりはましだが、例年には程遠い。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・なじみ客が一部しか戻ってきていない。やはり新型コロナウイルスに対しての警戒心が強いと考える。当店においては持続化給付金で補っている状態である。
□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・6月は週末の土日だけ営業したが、部屋の稼働は1割ぐらいしかない。
□	旅行代理店（所長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響により自粛ムードが続いている。
□	通信会社（職員）	販売量の動き	・延期となっていたものや、新規の問合せについても契約に至っていない。

	▲	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・生活必需品は横ばいで、それ以外は大きく落ち込んでいる。
	▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・外食を控えているため、食料品に関しては購入点数が増えている。しかし、菓子や生活用品を含めた全体としては必要最小限の買物にとどめている印象を受ける。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の解除後、県外からの出張客が必要最小限ではあるが、出てきている感じである。
	▲	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・住宅展示場や問合せ等の来客数が減少している。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染防止対策でのデパート休業の影響もあり、入込客が極端に減少している。下旬になり、デパートの全面再開等で少しずつ客の流れが出てきた様子である。売上の増加に結び付くかはまだ分からない。イベントの全面中止もあり、入込客の回復がどの程度期待できるか不明である。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・自粛解除になり、少しずつではあるが客足は戻りつつある。とはいえ、購買まではなかなかつながらないのが現状である。
	×	一般小売店〔事務用品〕（店員）	来客数の動き	・店頭では来客数が少なく、営業部では客先に足を運ぶ機会が減少したので売上が激減している。
	×	スーパー（総務担当）	競争相手の様子	・客単価が下がってきている。
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・季節商材が売れない。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門は引き続き前年に対し9割減、宴会部門も会議のみで前年に対し9割減、レストラン部門も一部営業再開したが客の戻りが悪く、恐る恐る食事に来る感じで前年に対し8割減である。ようやく9月以降の予約や問合せが出てきたが、新型コロナウイルスの感染状況次第で再びキャンセルになる可能性がある。
	×	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・来客数でみると県内容が若干ある程度で、県外からは個人客、グループ客共にほとんどなく、インバウンド客もほとんどないため、事実上の休業に近い営業状況である。
	×	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる影響で会員数が20%以上減少し、6月1日の再開後も再来店しない人が多く、単月での収支がマイナスになってしまっている。
	×	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・高価格帯商品の販売量が減っている。建て売りの在庫も増えてきている。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	電気機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・来客数が増えている。
	○	精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響は4月が最も大きかった。ここ1か月は、不安定な要素はあるものの、若干戻ってきた気配を感じる程度である。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量について大きく変わらない。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の全面解除を受けて営業活動を開始したが、受注に結び付いていない。今月の売上高は前月を僅かに上回る程度である。
	□	司法書士	取引先の様子	・助成金申請のための書類作成や書類確認の依頼が多い。会社の解散登記の依頼も多い。
	▲	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの爪痕は深い。外食ルートを中心に業務用は大幅に前年割れで推移しており、小売用の受注は引き続き好調でもその穴は埋まらない。
	▲	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による自粛や経済活動の停滞により、個人消費のみならず企業業績にも大きな影響が出ており、受注、販売共に厳しい状況が続いている。

		税理士（所長）	取引先の様子	・新型コロナウイルスショックに尽きる。少しずつ飲食店や観光業関係の店は開いてきているが、以前ほどではない。製造業や建設業で先行きが非常に厳しくなっている。受注残高が徐々に減少している状態が続いている。産業全体がマイナスに向かっている感じがしており、少し心配である。
	×	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・繊維資材、衣料共に目先の稼働率も、長期の稼働率も非常に見通しが悪い状態であるが、新型コロナウイルスの感染拡大の収束次第で少しずつ回復してくるのではないかとみている。ただ、今のところの見通しは非常に悪い。
	×	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・欧米、国内市場共に新型コロナウイルスの影響で営業活動がストップしているため、受注活動ができない。したがって、受注が取れない状況である。
	×	建設業（経営者）	それ以外	・当社の公共土木事業は新型コロナウイルスの影響をほとんど受けずに済んでいるが、知り合いの飲食業、旅行業者、ホテル業者は青息吐息である。
	×	輸送業（役員）	受注量や販売量の動き	・異常気象と新型コロナウイルスによる影響がある。
	×	金融業（融資担当）	取引先の様子	・4～5月の業績の速報値も悪く、新型コロナウイルスの影響から先行きを見通すことが難しく、事業や資金繰り計画がなかなか固まらない。担当先の申込件数は落ち着いてきたが、信用保証協会の応諾に時間が掛かっている。
	×	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者からは全体的には決して良くないが、少し動きが出ているという話を聞いている。
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・どん底からみて上向きなだけだが、各業種で動きがみえてきている。依然として動きのみえない業種も存在する。
	□	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響か、求人数が激減している。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・この先の状況が不透明であるといった理由で、開発技術者の提案が受け入れられない。
	▲	民間職業紹介機関（経営者）	それ以外	・毎年あった行事や事業等が今年は新型コロナウイルスの影響で中止が多く、関連した委託業務も減少している。
	×	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・1回の発行で100件近く掲載数が減っている。
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・政府の緊急事態宣言が解除されたことを受けて経済活動が再始動したことで、前月よりはやや上向きになったようだが、新型コロナウイルス発生以前の状況と比較すると、依然として底に停滞している。
	×	職業安定所（職員）	求人数の動き	・5月の有効求人倍率は1.32倍で、前年同月比0.67ポイントの大幅な減少となった。産業別の前年同月比では、製造業で52.4%減、宿泊、飲食サービス業で60.0%減、生活関連サービス、娯楽業で51.6%減となっている。
	×	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・事業所からの雇用調整助成金の相談も引き続き多く、求人は前年度と比較して減少している。
	×	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人票を出す企業数が前年度より少ない。